令和元年度、令和２年度
千里たけみ留守家庭児童育成室の運営業務実施状況検証結果について

令和４年３月
吹田市教育委員会
地域教育部 放課後子ども育成室

吹田市立千里たけみ留守家庭児童育成室「風の子ことり」（以下「千里たけみ育成室」とする。）については、平成29年４月から社会福祉法人・千里聖愛保育センターに業務委託している。当初は令和２年３月までの３年間の委託契約で、委託業務の実施状況を評価する附属機関での審議において、事業者による事業運営が良好であるとの結果を得て、引き続き令和２年４月から令和７年３月までの５年間の委託契約を締結している。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下「育成室」とする。）の運営状況に関して、放課後子ども育成室による検証を行い報告するものである。

～検証方法～
１　放課後子ども育成室職員【担当事務職員、スーパーバイザー】による現地視察
２　保護者へのアンケート：委託初年度 年間３回、２年目以降 年間１～２回
３　事業者への聴き取り
４　チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

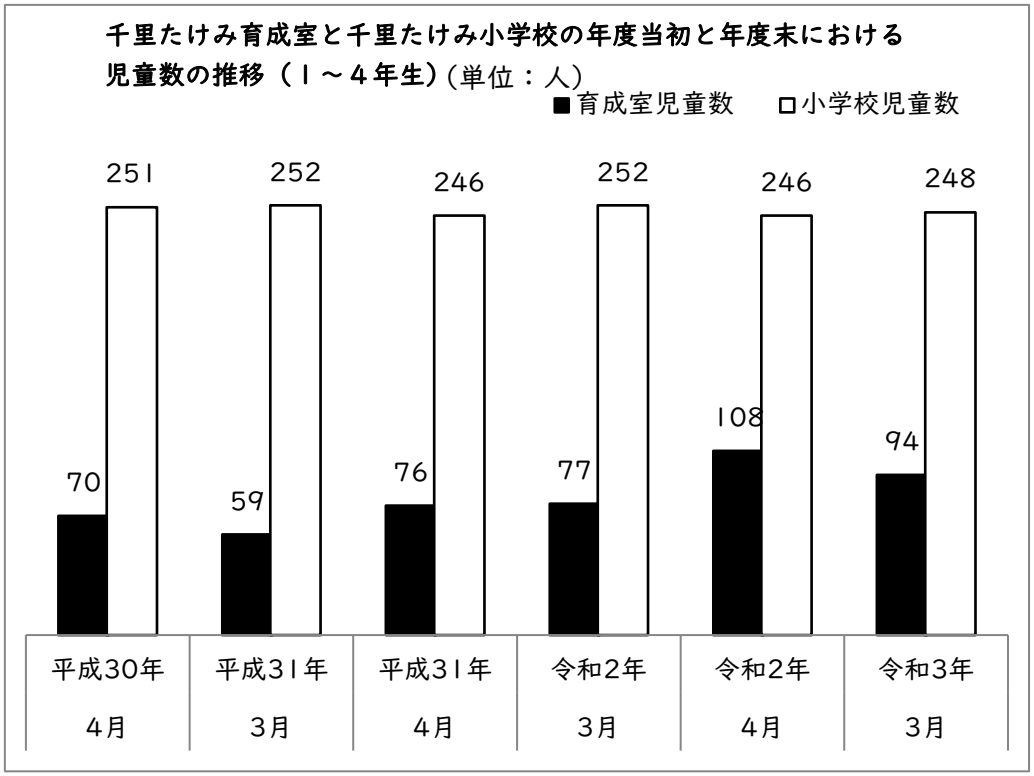
１　入室児童数について

千里たけみ育成室については、令和２年４月時点で109人（学年内訳、１年：40人、２年：26人、３年：28人、４年：14人、６年：１人）在室しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が２人在籍している。３教室で運営しており、１室当たりの児童数は36人となっている。児童数の規模としては、36育成室中18番目と他の育成室と比べて中規模である。

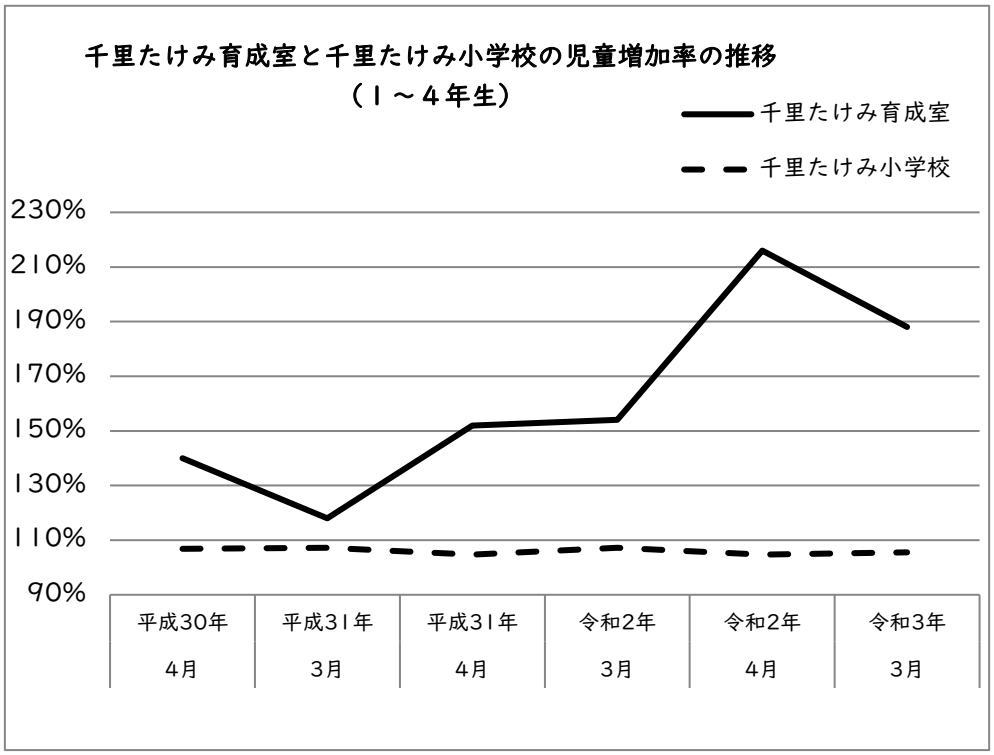
入室児童数は増加傾向にあり、入室児童増加率は、令和2年度は平成30年度比で216％となり、前年度から64ポイント増加している。また、小学校の児童増加率と比べ、入室児童の増加率が大きく、就労支援を必要とする家庭の割合が増えている地域であることが見て取れる。

【表1・2】

【表 1】

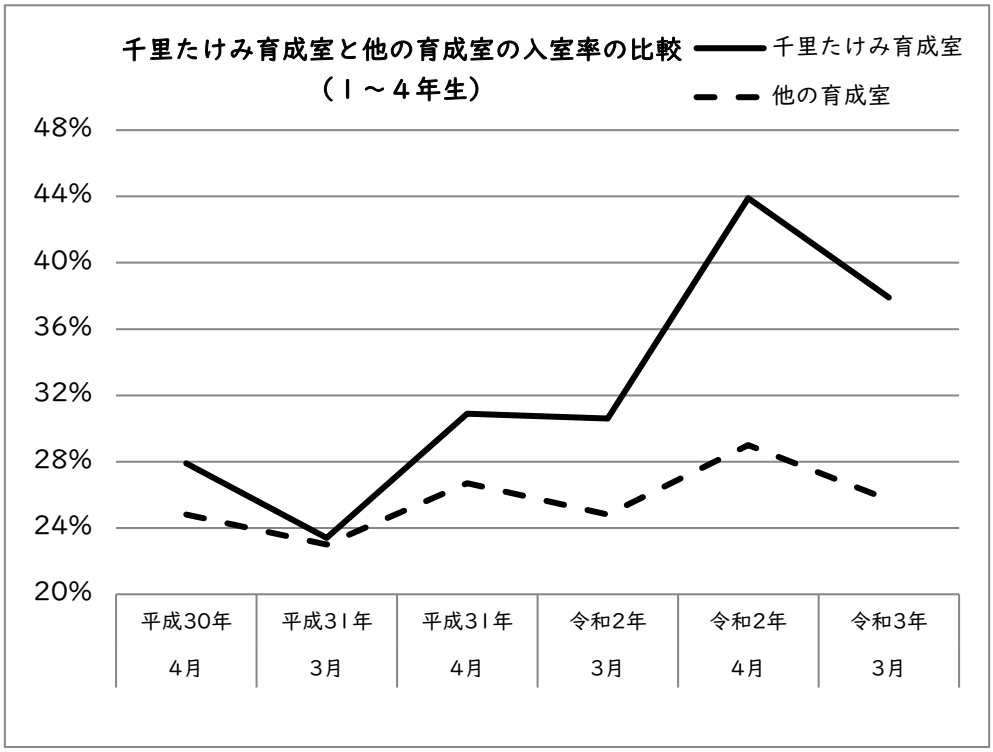

千里たけみ育成室と千里たけみ小学校の年度当初と年度末における
児童数の推移（１～４年生）(単位：人)
■育成室児童数
□小学校児童数
251
252
246
252
246
248
70
59
76
77
108
94
平成30年 4月
平成31年 3月
平成31年 4月
令和2年 3月
令和2年 4月
令和3年 3月

【表 2】


千里たけみ育成室と千里たけみ小学校の児童増加率の推移
（１～４年生）
千里たけみ育成室
千里たけみ小学校
230%
210%
190%
170%
150%
130%
110%
90%
平成30年 4月
平成31年 3月
平成31年 4月
令和2年 3月
令和2年 4月
令和3年 3月

千里たけみ育成室の平成30年度から令和２年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表3】のとおりとなっている。令和元年度から令和２年度にかけて大きく上昇しており、保護者ニーズの急激な増大に対して委託事業者が受入れ体制を整えたことがうかがえる。

【表 3】



２　保育内容について

（１）日常における保育の取組について

千里たけみ育成室の日常の保育の取組としては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。主な理由としては以下を挙げることができる。

ア　児童の登室状況等の把握、保護者との情報交換を適正に行っている

連絡帳や電話、独自の連絡網ツールでの事前連絡及び出欠簿での管理を行うとともに、補助的にホワイトボードでの管理も行っている。また、延長開始時には別途作成している延長児童出欠簿で改めて出欠確認を行っている。

保護者と連絡ノートや電話、お迎え時などに情報交換を行い、必要に応じて懇談を実施するほか、ブログに日々の児童の様子を掲載するなど、保護者に対する情報発信も行っている。

イ　緊急時に備えた体制づくりを行っている

児童が怪我をした際は、一人で判断せず、複数の指導員で相談して対応するようにしている。また、アレルギー対応などに関して独自に研修を行っているほか、緊急時のマニュアルを作成し、指導員全員で共有している。

ウ　学校や地域（太陽の広場）との連携が図られている

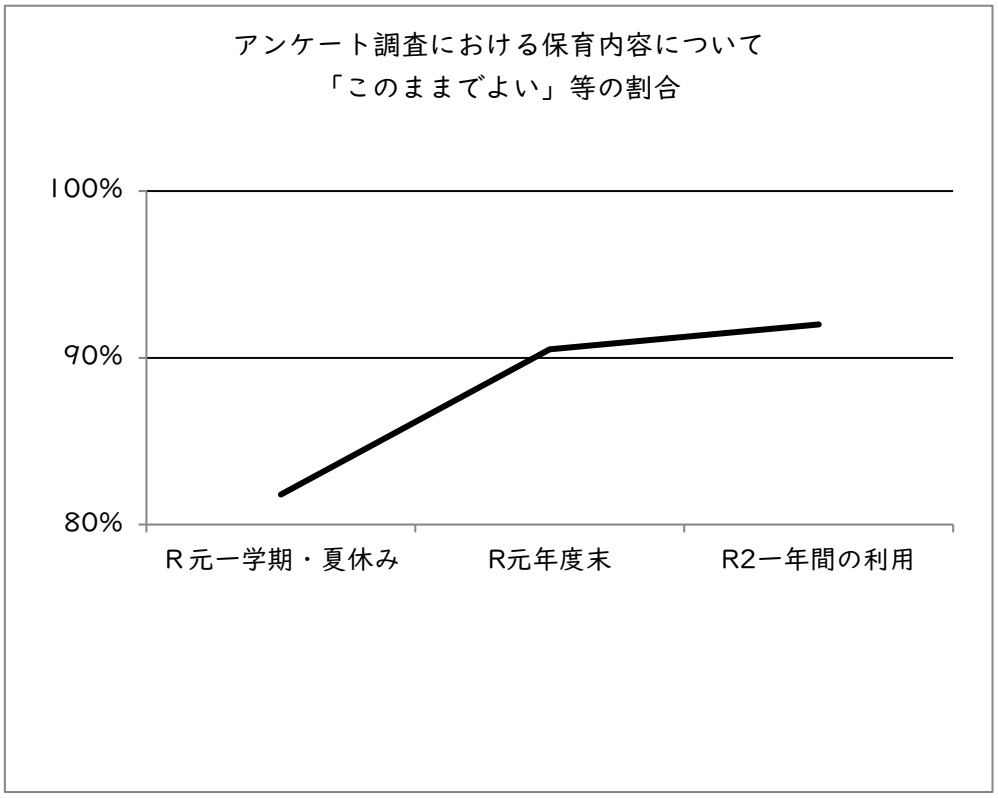
毎月１回開催される太陽の広場連絡会議で、校長、教頭、太陽の広場フレンドとの情報共有を行っている。また、児童の様子で変化や気になる点があれば、必要に応じて担任の先生と話をするなどしている。

（２）保育内容に対する保護者の意見について

これまで行った３回のアンケートの調査結果において、「このままでよい」「保育内容は適切であると思う」と回答があった割合は、令和２年度一学期・夏休みのアンケートから１年間で約10ポイント上昇しており、保護者からの評価が高くなっていることが読み取れる。【表４】

一方で、令和２年度のアンケートにおいて、「わからない」という回答が4.8%あったことから、保育内容について理解してもらえるよう、保護者への情報提供等について、今後の運営で更なる改善を検討していってもらいたい。

【表４】



（３）イベント（季節ごとのイベントやお誕生日会等）について

大きなイベントとして、夏のお楽しみデイ、クリスマス会を実施した。いずれも新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、少人数で分散して可能な限り屋外で活動し、屋内においても大声を出さず、密集しない遊びを提供した。

また、例年、保護者参加型のイベントとして６月の交流会（コーナー遊び）などを実施しているが、令和２年度は同様の観点から児童のみの参加とした。

アンケートの回答においても、令和元年度一学期・夏休みのアンケートでは「イベント（お誕生日会、クッキング保育等）をもっと増やすべきである。」という意見が【2人】、令和元年度１年間の利用に関するアンケートでは「回数が少なかった」という意見が【１人】に留まっており、良好な状態である。

（４）おやつの提供について

スナック菓子ばかりにならないように、季節の果物、暦を感じられるもの、焼きおにぎりやおかず系のものなどを取り入れ、必要に応じてホットプレートを使って調理もしている。

基本的には全員で同じものが食べられるようにしているが、アレルギーのある児童については、必要があれば別途購入などした上で、保護者に確認を取るようにするとともに、提供する際には、複数人でのチェックを行い、別プレートで用意している。

また、消費期限がわかるようにしているほか、毎日の献立について指導員全員が把握できるよう冷蔵庫に貼り出すなど、管理の面でも工夫している。

（５）おやつの提供に関する保護者の意見について

アンケートの回答では、令和元年度一学期・夏休みのアンケートでは「適当である。」という意見が93.2%【41人】であり、令和元年度１年間の利用に関するアンケートでも「いろいろと種類がたくさんあってよかった」等の肯定的な意見が64.6%【40人】である一方、「量は多すぎた」という意見が12.9%【8人】あるなど、改善が必要と考えられる項目もあった。

３　指導員について

（１）指導員の配置について

千里たけみ育成室の指導員の配置については、３教室での運営であるため、教室に配置する指導員が６名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が３名必要であるため、１日当たり９名の指導員の配置が必要である。

要支援児童等の状況に合わせて体制を組むようにしているが、基本的に市が定める指導員数より一名多く配置するようにしており、より丁寧な保育ができる体制を整えているほか、指導員に急な欠勤が生じても対応ができるようにしている。一日保育時などは、交代で休憩が取れるようにその時間のみスポットで職員が勤務に入るなどの工夫もされていた。

また、主任指導員はクラス及び指導員全体の把握に努めるようにしている。クラス担任は主にクラスの保育の進行と児童・要支援児保育を、補助員は保育補助とおやつ準備、片付け等を行うように役割分担をしており、これらの連携が十分に取れるよう、毎日のミーティングを保育前に全員で必ず行うようにしている。

放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）とも積極的に連携や情報共有を図り、保育内容の充実・向上に努めていると感じることができた。

（２）指導員の児童との関わりについて

児童が主体的で健全な関係を築けるよう、一人ひとりの家庭環境や心身の状態を把握するよう心掛けている。年齢に合った玩具や関心のある集団遊びが十分に出来るよう環境を整えている。

また、日常的に話をし、遊びなどを通して、互いを知り、信頼関係を育むようにしており、問題行動などがあった際にも、児童の話を丁寧に聴き、指導することを心掛けている。児童の思いや意見、なぜそのような行動に至ったのかについてなどを丁寧に聴き取った上で話をするようにしている。また、児童自身が本当に理解できるまで繰り返し伝え続けるようにしている。

指導員と児童との信頼関係が構築され、楽しく穏やかな雰囲気を持った育成室となっている。

（３）指導員に関する保護者からの意見について

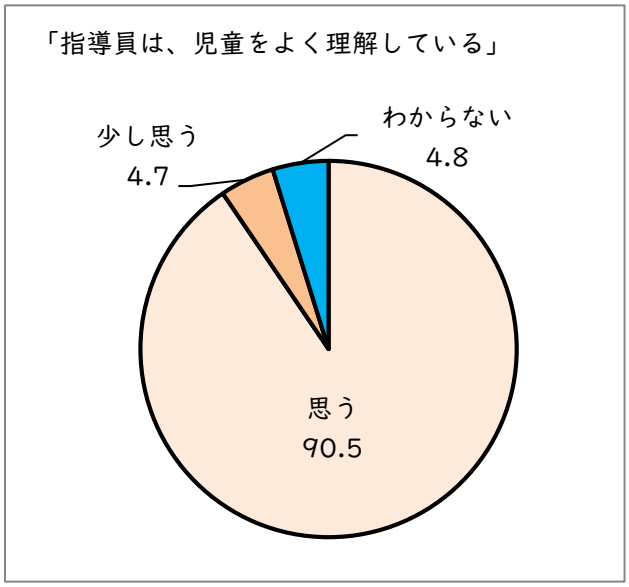
令和２年度末のアンケートにおいて、指導員についての設問がある。この設問は「指導員は、児童をよく理解している」と「指導員は、児童のことで保護者の相談によく応じている」の２問からなり、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。【表6】

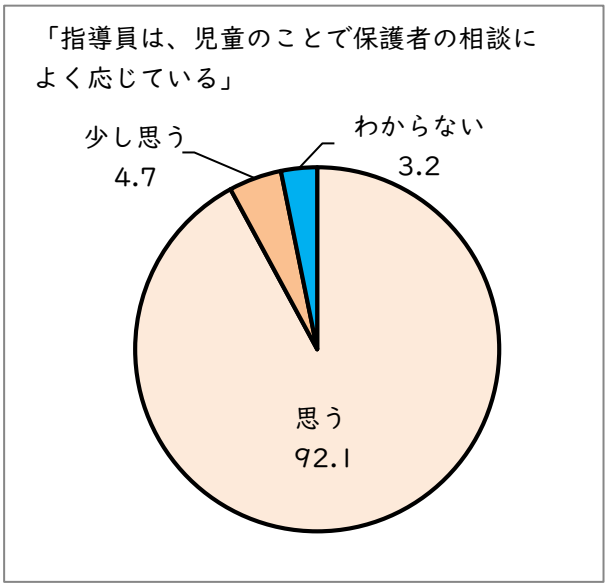
いずれも、「思う」「少し思う」の合計が95％を超え、良好な状況である。具体的な意見として、「とても子供をよく見てくれている」や「家庭のようなあたたかい雰囲気にしてくれている」、「声を掛けて普段の状況を教えてくれる」などが挙げられる。

今後も継続して高い評価を維持できるよう努めるとともに、少数ながら「わからない」という回答があったため、児童とのコミュニケーション、保護者への情報提供に努め、更に高い評価が得られるように期待したい。

【表6】

保護者アンケートにおける指導員の評価に関する回答（単位：%）





4　総合的な評価について

（１）放課後子ども育成室による評価について

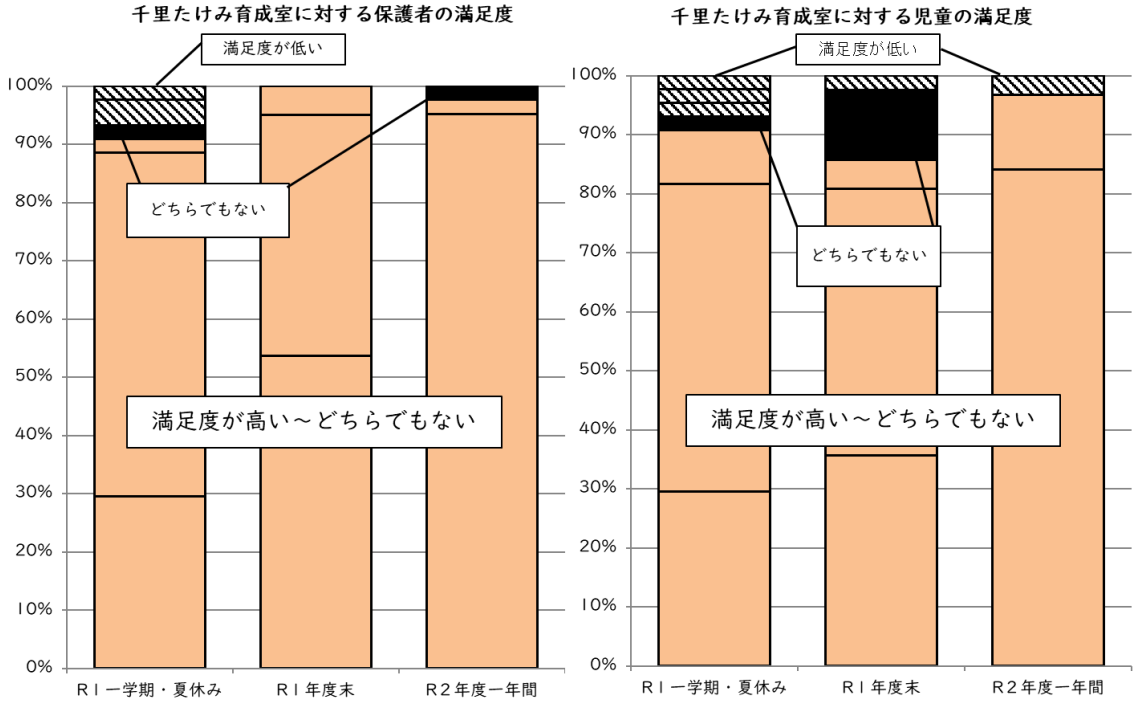
放課後子ども育成室職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、千里たけみ育成室の運営については、以下の理由により高く評価することができる。

１　育成室では、入室児童が楽しく元気に過ごしている。
２　指導員が常に児童とコミュニケーションを取っている。
３　連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成室の間で共有が図られており、適正に運営が行われている。
４　育成室の運営では、直営育成室の取組の内容をベースに組み立てられており、児童と一緒に遊んだり見守ったりしながら、児童が主体的に活動できる環境づくりを心掛けている。また、発達年齢に見合った玩具を取り入れるなど、独自の取組も行っている。
５　アレルギー対応などに関して独自に研修を行っているほか、緊急時のマニュアルを作成し、指導員全員で共有するなど、緊急時に備えた体制づくりを行っている。

（２）保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「児童にとって千里たけみ育成室はどの程度楽しい場所か」を聞く設問と、「保護者にとって千里たけみ育成室はどの程度満足できるものとなっているか」を聞く設問を設けている。【表7】その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、おおむね高い評価を受けている」と言える。

【表7】



【表の見方】

	評価が高い						評価が低い
保護者	とても満足している			どちらでもない			とても不満がある
児　童	とても楽しい			どちらでもない			とてもつまらない

5　終わりに

これまでの放課後子ども育成室の職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、令和元年度から令和２年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

アンケートの自由記述欄においても、「毎日楽しく過ごしている」「学童での出来事をいつも楽しそうに話してくれる」等、児童が育成室に親しんでいる様子が書かれた記述を見ることができ、「安心して任せられる」「入室当初は慣れなかったが、先生に優しく見守ってもらい、今では学童が大好きになった」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く見ることができる。

一方で、「おやつの量が１年生にとっては多いように思う」等の意見も見られ、よりきめ細かい対応も求められている。現在の委託事業者には、引き続き保護者、学校、放課後子ども育成室と連携を密にした運営を行うとともに、保護者からの意見を真摯に受け止め、必要に応じて改善しながら、更なる向上を目指してもらいたい。